

◆ 基礎情報

計画名	フードシステムの経済学の国際研究交流を通じた学生主導型リーダーシップ育成
実施責任者	ビジネス学部張采瑜
対象者	ビジネス学部4年生6名
実施期間	2025年4～8月

◆ 取組み概要

全体の概要（この取組みを始めた背景や目的を簡潔に記述）

本プログラムは、フードシステムの経済学をテーマとした国際研究交流を通じて、共立女子大学ビジネス学部の学生が「共立リーダーシップ」の4要素を実践的に学習することを目的として実施されました。2025年8月4日から8日までの5日間、台湾国立中興大学を中心とする4大学との連携により、6名の学生が海外での学術発表などを通じて、グローバル環境でのリーダーシップ能力を育成しました。参加学生は、単なる語学研修や観光的な海外体験を超えた、専門分野での国際学術交流を通じて、真のグローバルリーダーシップを身につけることができました。フードシステムの経済学という明確なテーマのもと、学術的な深さと実践的な応用力を同時に獲得し、共立女子大学の教育理念を体現する成長を遂げています。

◆ 取組み全体の流れ

（以下、「」の中は、学生のコメントを引用）
取り組みは2025年4月から開始され、台湾渡航に向けた14回の準備授業を実施しました。この準備段階では、KPT法（Keep・Problem・Try）による継続的改善システムを導入し、毎回のゼミ後に学生自身が振り返りを記録し、次回の活動改善に活用する仕組みを構築しました。
当初、学生たちは「プライベートの話をしてしまう」「今まで1番進めなかった」「長時間の準備への集中力維持」といった課題を抱えていました。しかし、KPT法による「議論の構造化」「ポイントを分散させない明確な責任分担」により、これらの課題を段階的に解決していきました。
各回で異なる学生が全体をリードする機会を設定し、全員が主導的役割を経験できる仕組みを採用しました。この過程で、学生たちは共立リーダーシップの基礎を習得し、中間評価では全要素で0.5から0.8ポイントの向上を達成しました。特に「相互支援」が3.8から4.5へと最も高い成長を示し、学生同士で支援し合う体制が自然に構築されました。数値的成長以上に重要なのは、学生たちの質的な変化です。8月の4大学合同での課題発表では、「台湾、韓国、明治それぞれレベルが高く驚きました」という高い水準での国際競争を体験しました。その中でも、韓国学生の「積極的に質問していて感心しました。学んでることを軸に発展した質問をしていて周りに良い影響を与えている」という観察から、リーダーシップの本質である「他者に良い影響を与える力」を学生が理解したと感じました。「発表が練習通りにいってよかった」「みんなで協力して発表することができた」という達成感により、準備段階での相互支援が実を結びました。

◆ 取組みの成果

本プログラムの成果は、客観的な数値データによって明確に証明されています。初回評価から最終評価まで、全てのリーダーシップ要素において継続的な向上が確認されました。数値的成長以上に、自発的な協力行動は、意識せずとも発揮される真のリーダーシップを身についたと考えられます。ビジネス学部ホームページでその様子と学生が学んだ内容も記載して、実際に広報として活用しています。

<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/business/news/detail.html?id=5707>

◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	全員が順番に主導役を経験することで、多様なリーダーシップスタイルを体験し、自分らしいリーダーシップを発見できるよう支援するアプローチにより、学生たちは「リーダーシップとは一人の人間が他者を支配することではなく、チーム全体が高いパフォーマンスを発揮できるよう支援すること」という理解を深めました。台湾での体験を通じて、この意識づけは確実な定着を見せました。「初めての海外で、全部が緊張しました」という状況から出発しましたが、「慣れない土地でお互い支えながら台湾まで来た」という相互支援の精神を発揮し、自信の獲得と成長の実感をしました。
協働活動	準備段階では、「主導学生をサポートする協力体制を構築し、チーム全体での支え合いを促進」することから始まり、最終的には「航空券取得等のサポートを学生同士で支援し合う体制」の自然な構築まで発展しました。初期の意図的・計画的な協働から、台湾での「相互支援しながら起こしたり、片付けたりしました」「空港で荷物の見張りを分担したり、重そうな荷物を交代で持ったり」という自然で無意識的な協働への発展は、チームワークの定着を示しています。さらに「お昼ご飯のときに台湾の学生と韓国の学生とたくさん話すことができて」という文化を超えた協働により、グローバル環境でのリーダーシップ発揮能力を獲得したと言えます。
共立リーダーシップの観点での振り返り	共立リーダーシップの観点からの振り返りでは、4要素それぞれの成長を客観的に評価し、自己理解を深めました。学生たちは「目標は他の人と話すことだったので達成できた」「コミュニケーション能力。多くの学生と関われたため」「みんなの話を聞く相互支援を発揮した」など、具体的な行動と共立リーダーシップ要素を関連づけて理解できるようになり、自己評価もできました。振り返りの際に、自由コメント形式を利用して、学生の生の声で成長を感じられました。「言語を超えたコミュニケーションの難しさを実感」しながらも「理解してくれて会話をするのが楽しかった」という振り返りは、困難を乗り越えた達成感と、さらなる成長への意欲を示しています。

◆ 学生の成長に関する総括

参加学生6名は、それぞれ異なる出発点から出発しながらも、全員が顕著な個人的成長を遂げました。最も印象的なのは、個々のコミュニケーション能力の向上です。学内での練習期間では、それぞれの就職活動に配慮し合う練習時間の設定など、相手を理解しようとする学生のそれぞれの姿勢も印象的でした。また海外の経験では「とりあえずできる英語で話してみよう」という積極的な姿勢の獲得は、不確実な状況への対応力、失敗を恐れない勇気、相手を理解しようとする共感力など、本プログラムから、グローバルリーダーシップの基盤となる資質の獲得を示しています。個人的成長以上に特筆すべきは、集団としての相乗効果の実現です。「お互い支えながら台湾まで来た」「相互支援しながら早起き」という小さなところでも自然な協働行動の定着により、競争ではなく協働による成長を果たしました。これは共立女子大学の建学の精神である「女性同士の連帯と協力」の実践と言えます。

◆ 取組みを通じた全体の所感

学生自身が主体的に振り返りを行い、改善点を発見し、次の活動に活かすサイクルにより、教員主導ではなく学習者主導の成長プロセスを確立できたと考えます。国際連携による教育環境の構築も効果的でした。4大学合同での課題発表なので、単一大学では実現困難な多様性豊かな学習環境も刺激になると考えられます。学生のコメントにあるように「台湾、韓国、明治それぞれレベルが高く驚きました」というグローバルな挑戦に挑みながら、自信をつけています。この経験により、教育者として、学生の可能性を過小評価することなく、挑戦的で支援的な環境を提供することの重要性を深く理解しました。また、学生たちは「わがままな6人を連れて行ってくださりありがとうございました」という謙虚さと大学への感謝の気持ちを持ちながら、「私は割とどこでも生きていけそうだなと感じました」と、刺激的な環境で自信を獲得し、今後の大きな財産となることを期待できます。

◆ 今後の展開

本プログラムで育成された学生たちが、各分野でのリーダーとして活躍し、社会の実現に貢献することを期待できます。社会に積極的に貢献する女性リーダーの育成が、本プログラムの一つの目標です。また、「多国籍の発表だからこそ多くの気づきが得れました」という学生のコメントのように、国際交流関連部署との連携によるリーダーシップ開発の可能性も考えられるのではないかと思います。